

《担当者名》 坊垣暁之 幸村 近

【概 要】

臨床病態学ではさまざまな疾患の病態を学び、臨床症状と臨床検査を通じて診断に至る過程を臓器系統別に理解する。さらに治療方針決定や治療後の経過と臨床検査の関わりについても詳しく学ぶ。臨床病態学 では、神経・運動器・感覚器疾患、腎・尿路疾患、体液・電解質・酸-塩基平衡異常、代謝・栄養障害、染色体・遺伝子異常症などについて、主要疾患の臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を理解する。またRCPC (reversed clinico-pathological conference) を行い、実際の症例における基本的検査データを系統的に解析することにより病態を把握する能力を養う。

【学修目標】

- 1) さまざまな疾患の病態を学び、臨床症状と臨床検査を通じて診断に至る過程を臓器系統別に理解する。
- 2) 治療方針決定や治療後の経過と臨床検査の関わりについて理解する。
- 3) 臨床検査の意義や臨床上的意思決定における検査情報の活用法について説明できる。
- 4) 主要な神経・運動器・感覚器疾患について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 5) 主要な腎・尿路疾患について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 6) 主要な腎・尿路疾患について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 7) 主要な体液・電解質・酸-塩基平衡異常について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 8) 主要な代謝・栄養障害について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる
- 9) 主要な染色体・遺伝子異常症について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる
- 10) RCPCを行い、実際の症例における基本的検査データを系統的に解析することにより病態を把握する能力を養う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	神経・運動器・感覚器疾患 1	・臨床医学総論 ・臨床検査の意義や臨床上的意思決定における検査情報の活用法 教科書：第1章、資料配布	幸村 近
2	神経・運動器・感覚器疾患 2	骨疾患、感覚器疾患 教科書：第11章	幸村 近
3	腎・尿路疾患 1	腎疾患 教科書：第9章	幸村 近
4	腎・尿路疾患 2	尿路疾患、男性生殖器疾患 教科書：第9章	幸村 近
5	体液・電解質・酸-塩基平衡異常	体液・電解質・酸-塩基平衡異常 教科書：第9章	幸村 近
6	代謝・栄養障害	・先天性代謝異常 ・新生児マス・スクリーニング検査 教科書 第13章	坊垣暁之
7	代謝・栄養障害	・糖代謝異常 ・糖代謝の検査 教科書 第13章	坊垣暁之
8	代謝・栄養障害	・脂質代謝異常、蛋白代謝異常 ・脂質代謝の検査 ・蛋白代謝の検査 教科書 第13章	坊垣暁之
9	代謝・栄養障害	・尿酸代謝異常 ・ビタミン代謝異常 ・鉄代謝異常 ・生活習慣病・肥満症 ・尿酸代謝の検査 ・重金属の検査 教科書 第13章	坊垣暁之

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
10	染色体・遺伝子異常症	・染色体異常症 ・遺伝子異常症 ・染色体・遺伝子異常症の検査 教科書 第16章	坊垣暁之
11	RCPC解説	病歴や身体所見の情報なしで、日常診療上のルーチン検査所見のみから病態を推論する教育手法の一つであるRCPC (reversed clinico-pathological conference) について理解し、実際にRCPCを行うための手順を身に付ける。	幸村 近 坊垣暁之
12	RCPC1	症例1について検査データを示し、病態に関連する複数検査値の組み合わせを分析し解釈することで、病態を読み解く訓練を行う(グループワーク)。	幸村 近 坊垣暁之
13	RCPC1	同上	幸村 近 坊垣暁之
14	RCPC2	症例2について、検査データを時系列の変化で示し、病態に関連する複数検査値の組み合わせがどう変動するかを分析し解釈することで、刻々と変化していく病態を読み解く訓練を行う(グループワーク)。	幸村 近 坊垣暁之
15	RCPC2	同上	幸村 近 坊垣暁之

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

定期試験 80% 小テスト・レポート 20%

【教科書】

奈良信雄・高木康・和田隆志 編著 「最新臨床検査学講座 病態学/臨床検査医学総論 第3版」 医歯薬出版株式会社 2023年

【参考書】

河合忠 監修、山田俊幸・本田孝行 編集 「異常値の出るメカニズム(第7版)」 医学書院 2018年
矢富裕・横田浩充監修、小山高敏・戸塚実 編集 「標準臨床検査学 シリーズ 臨床医学総論(臨床医学総論, 放射性同位元素検査技術学, 医用工学概論, 情報科学・医療情報学, 公衆衛生学)」 医学書院 2013年
矢富裕・横田浩充監修、矢富裕 編集 「標準臨床検査学 シリーズ 臨床検査医学総論」 医学書院 2012年
佐藤良暢 監修、勝田逸郎・松本禎之 編集 「臨床病態学(改訂第5版)」 南江堂 2020年
高木康・山田俊幸 編集 「標準臨床検査医学 第4版」 医学書院 2013年
本田 孝行 著 「検査値を読むトレーニング ルーチン検査でここまでわかる」 医学書院 2019年
矢崎義雄 監修 「新臨床内科学[デスク判]第10版」 医学書院 2020年
矢崎義雄・小室 一成 総編集 「内科学(第12版)」 朝倉書店 2022年
北村聖 総編集 「臨床病態学 1巻 第2版」 ヌーヴェルヒロカワ 2013年
北村聖 総編集 「臨床病態学 2巻 第2版」 ヌーヴェルヒロカワ 2013年
北村聖 総編集 「臨床病態学 3巻 第2版」 ヌーヴェルヒロカワ 2013年

【備考】

講義の開講順は、変更する場合がある。変更内容や講義日程は、ガイダンス時または掲示等にて発表する。
一部クリッカーを活用し、授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。
一部Google Formを利用して学修課題を提示する。
アクティブ・ラーニングとして第12～15回のRCPCではグループワークを行う。

【学修の準備】

各回の授業内容および学修課題について、教科書の該当ページ、配布資料を事前に読んでおくこと(80分)
復習は、教科書や配布資料を活用し、学修を深めること(80分)

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP1) 生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

【実務経験】

幸村 近（医師）、坊垣暁之（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、臨床病態の理解・把握における臨床検査の意義、重要性、その他具体的な実践について講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している